

経営比較分析表（平成29年度決算）

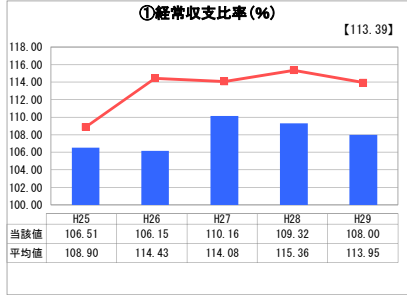
兵庫県 川西市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.44	99.73	3,132	

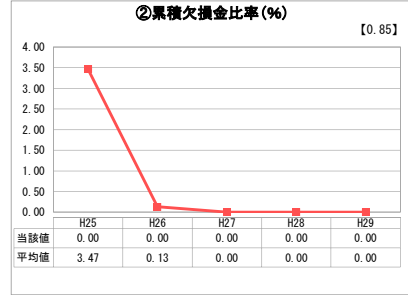
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
158,873	53.44	2,972.92
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
158,091	32.84	4,813.98

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

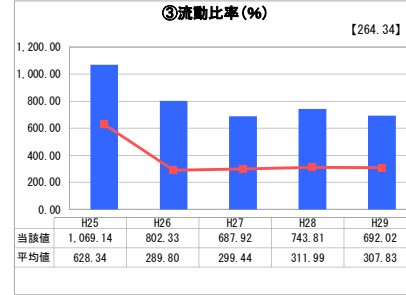
1. 経営の健全性・効率性



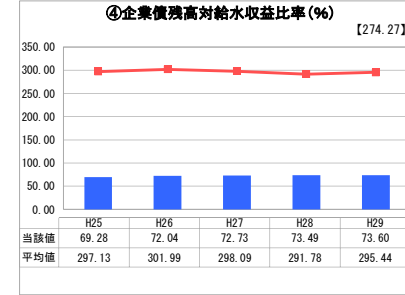
「経常損益」



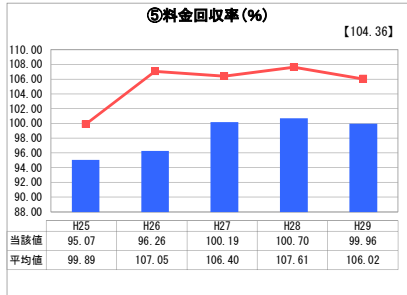
「累積欠損」



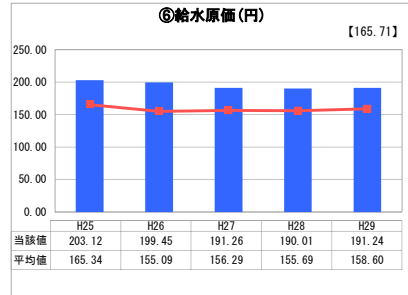
「支払能力」



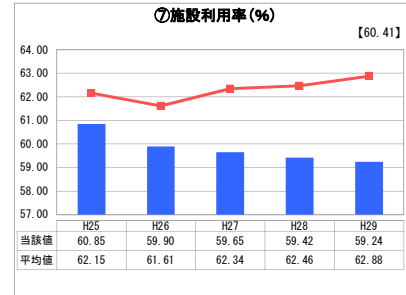
「債務残高」



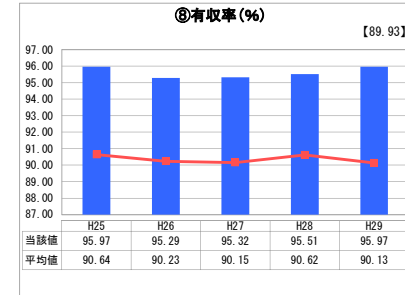
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

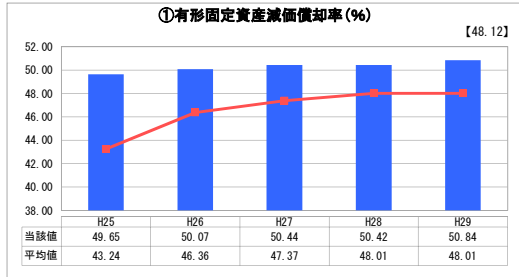


「施設の効率性」

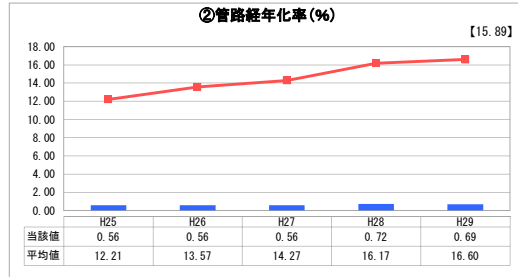


「供給した配水量の効率性」

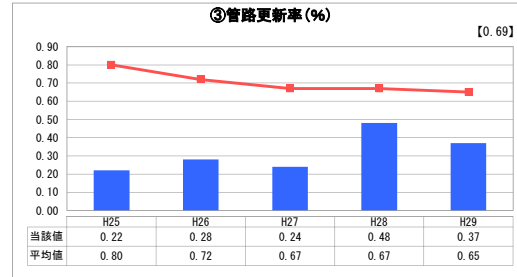
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性については、④企業債残高対給水収益比率が示す通り企業債残高は少なく、平成29年度の③流動比率は昨年度より減少していますが、理想値である200%を超えているため十分な現金等の資産があるといえる安定した経営状況です。

また、川西市は約半分以上を県営水道から受水しているため、平成29年度の⑥給水原価191.24円/m³は、類似団体の平均値に比べて32.64円/m³高い状況で、⑤料金回収率99.96%は昨年度より0.74ポイント減少していますが、料金のみで必要な経費をほぼ回収できています。①経常収支比率は、平成17年度に料金改定を実施し経営改善を図ったことにより、それ以降は100%を超えており、経常利益が続いている状況となっています。

経営の効率性については、主に老朽化した鉛管改良工事や継続した漏水調査を行っているため、平成29年度の⑧有収率は95.97%と、類似団体の平均よりも高く、効率よく事業運営を行っています。⑦施設利用率は年々減少しており、施設が過大となっています。

2. 老朽化の状況について

本市水道事業では、昭和40年代前半からの大規模団地の造成や、昭和47～50年にかけて人口流入の増大に対応するために多くの管路を布設したため、今後、多くの水道管が法定耐用年数の40年を迎え、老朽化した管路が右肩上がりに増加していくと予想されます。厚生労働省等の布設条件等の実態調査により、本市の約80%を占めるダクタイル鑄鉄管の実使用年限は60～80年の耐用が可能とされています。さらに、阪神大震災における施設被害等の状況を考慮すれば、いまだに十分な耐用力があり、安全であると判断しています。しかし、今後管路更新事業が本格化していく中、アセットマネジメント手法を導入し、中長期的な視点に立った管路更新計画の策定を行っていきます。

また、配水池等施設については、耐震診断を行い、順次耐震改修、並びに水需要を見据えダウンサイジングを含めた築造工事を計画していきます。

全体総括

今後も内部留保等の資金を活用して、老朽化した施設の更新や耐震化等の事業を行い、少しでも長く今の料金体系を維持していきたいと考えています。現在経営戦略の策定に取り組んでおりますが、企業債の活用、適正な時期の料金の見直し、固定費及び経費の削減など、さらなる効率的・効果的な事業継続を目指し、安心・安全な水道水の供給に努めていきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。